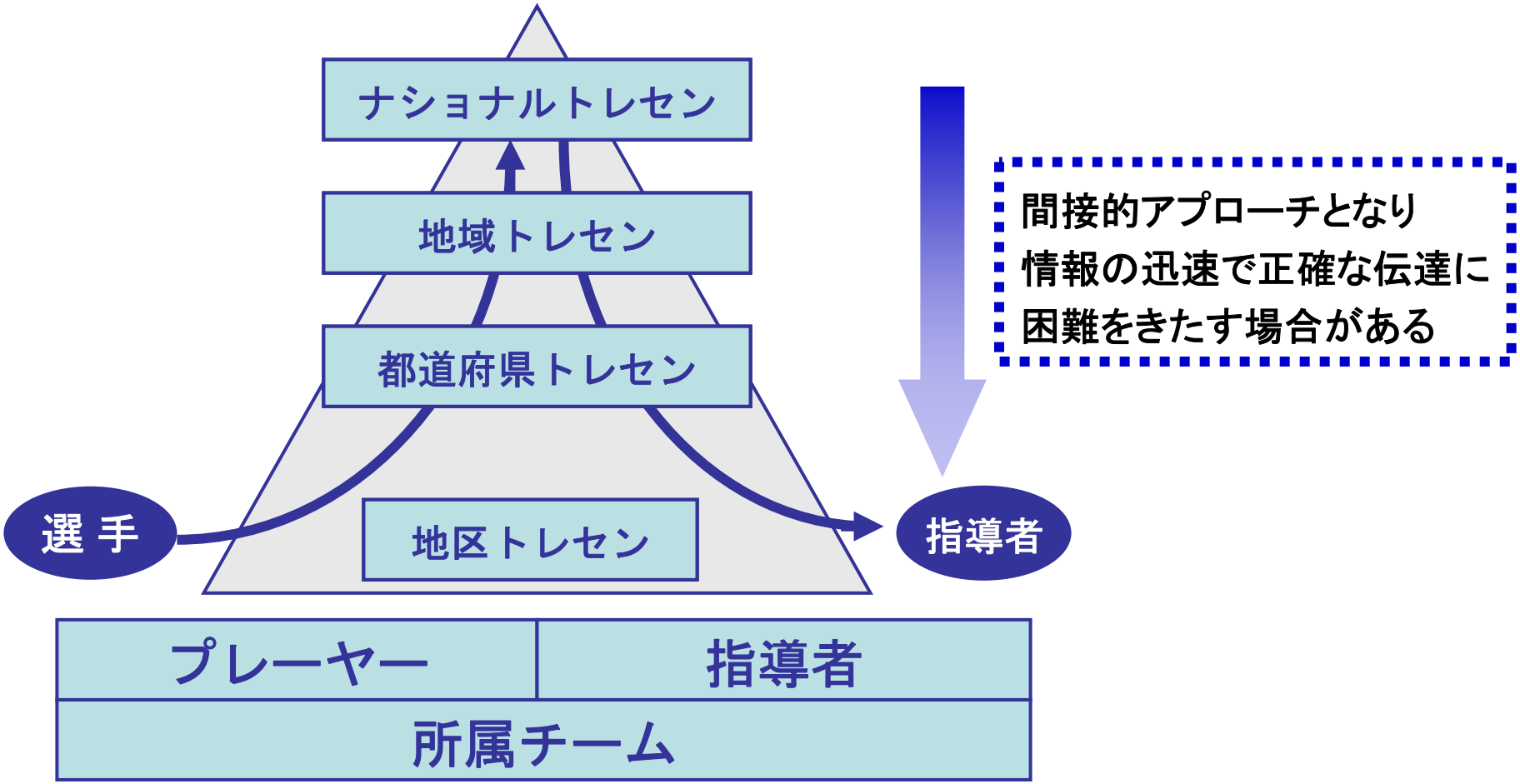
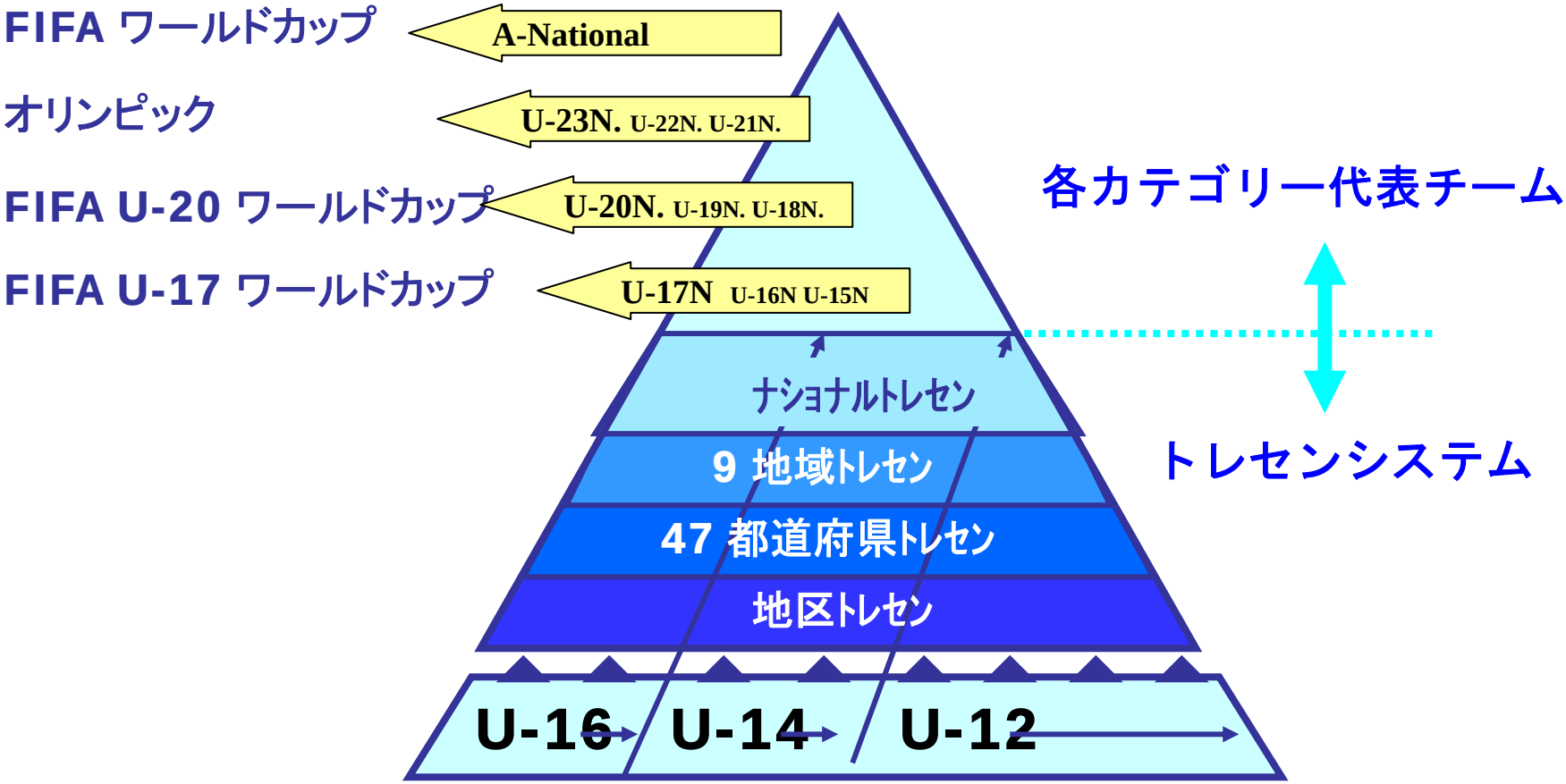
U-12トレーニング環境改善のために

『モデル地区トレセン』の提案

トレセンシステムにおける情報の流れ





育成のベースを築く年代としてのU-12の重要性

・下の年代であるほど、可能性は広く全国多くの選手にある。
⇒　多くの選手に質の高いアプローチを

・下の年代であるほど、生活圏内を越えた活動が困難
⇒　日常生活の環境の中で、頻度高く良い刺激を与えるほうが効果的

多くの可能性のある全国の子ども達に、日常生活圏内にて、なるべく頻度高く良い刺激を与えたい

➡ 地区トレセンの活用、充実

質の重視。
間接的アプローチになることによる弊害を排除したい。

➡ 地区トレセンへの直接的アプローチの可能性

「モデル地区トレセン」の考え方

能力の高い子ども達が無理なく集まることのできる生活圏内での地区トレセンにて、高い頻度で（週１～２回）、JFAのコンセプトのもと、A級U-12保持者によるトレセン活動の実施。
JFAのコンセプトを、A級U-12指導者により、直接的に指導。

定期的な研修により、コンセプトの確認を行いつつ活動。

地区トレセンの「モデル」となる。
他の地区トレセンへの発信、レベルアップの一助にもなることを期待。

海外の事例　1　　フランス

11～12歳

トレセン形式のトレーニング

全国が約650のセクターに分かれており、セクターごとに活動

セクター（地区）のベストプレーヤーをセレクションし、その可能性を伸ばすために良いトレーニングを施す場。

通い型。経費はトレーニング（指導者）のみ。（ピッチは多数あり）

海外の事例　1　　フランス

クラブという概念を越え、皆で良いサッカー選手を育てるという考え方。

年に1回セクターごとのミーティング。
時折FFFスタッフが訪れ、ディスカッションを行いベクトルをあわせる

当初は各地で猛反対があったが、現在では機能している。

海外の事例　２　ドイツ

1998年、2000年大会後の危機感

どこにでも生まれる可能性のあるタレント達が時間や労力を使って遠いところに行ってトレーニングをすることのないよう、比較的短時間で通える範囲に拠点（タレントセンター）を。
⇒　全国121箇所の拠点　⇒　現在390箇所　（70クラブに1箇所）
各2名のコーチ　（合計約1200名）
29名のDFB専任拠点コーディネーター

クラブとは異なり個にフォーカスした育成

U-12／U-13とU-14～U-18の2グループ
各拠点20名程度

DFB予算　年間1000万ユーロ

『モデル地区トレセン』

実現の可能性を具体的に探る

メリット

必要条件、必要なサポート

予想される問題点　⇒　対応策

その他の留意点

目標値算出

４種登録チーム　現在 8511

300箇所で、28-30チームに1箇所

120箇所で、70チームに1箇所（ドイツ）